

【2025 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
心理的アセスメント		選択	2	3	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
鈴木 真吾	B309	shsuzuki	水曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	<p><目的>心理学に基づくアセスメントについてその基本を理解でき、医療・保健分野から教育・学校分野、司法・犯罪分野まで、心理学に係る広範な現場で取り扱われる心理社会的課題をアセスメントする意義を知る。その上で、心理的アセスメントの結果を適切にまとめて記録・報告書とする重要性とその技術的な要点を伝達する。また、現代における心理学によるアセスメントの課題と挑戦についても紹介する。</p> <p><概要>心理的アセスメントの基本構造を踏まえて、各種心理的アセスメント法の種類とその概要について演習を取り入れながら講義する。その上で、実際の心理的アセスメント事例を用いて、心理的アセスメントの結果をグループで討議しながら記録・報告書へ模擬的に仕上げている演習をも行う。</p>				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・デベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	心理アセスメント、いわゆる心理検査は楽しく体験できる素材であるが、授業内で扱う心理検査は全てが臨床現場で要支援者へ用いる本物であり、社会的倫理観を欠かさずに参加することを切に望む。				
教科書	教科書は特に指定しない。				
参考書	「公認心理師の基礎と実践 心理的アセスメント」津川律子・遠藤裕乃（編）遠見書房				
外部教材	必要に応じて適宜紹介する。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	心理的アセスメントの目的及び倫理を理解できる。			HC (1) (3) (5)	
②	心理的アセスメントの観点及び展開を把握できる。			HC (1) (3) (5)	
③	心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）について説明できる。			HC (1) (3) (5)	
④	心理的アセスメントの結果を適切な記録及び報告として表現する素地を身につける。			HC (1) (3) (5)	
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間（時間）		
1	オリエンテーション：心理的アセスメントとは	講義・演習	授業時提示の知識を復習して理解を定着させる。演習・実習・実技の際は、必要なスコアリング（評定）や報告の記述案に取り組み持参すること。総復習を行い試験に備える。		
2	心理的アセスメントを支える基本構造(1) 基準と判定	講義・演習			
3	心理的アセスメントを支える基本構造(2) 行動の視点	講義・演習			
4	心理的アセスメントを支える基本構造(3) 面接の視点	講義・演習			
5	心理的アセスメントを支える基本構造(4) 検査の種類	講義・演習			
6	代表的な心理検査(1) 質問紙法①	講義・演習 実習・実技			
7	代表的な心理検査(2) 質問紙法②	講義・演習 実習・実技			
8	代表的な心理検査(3) 知能検査	講義・演習 実習・実技			
9	代表的な心理検査(4) 発達検査	講義・演習 実習・実技			
10	代表的な心理検査(5) 投映法	講義・演習 実習・実技			
11	代表的な心理検査(6) 作業検査法／テストバッテリー	講義・演習 実習・実技			
12	心理的アセスメントの事例と統合的解釈、報告(1)	講義・演習 実習・実技			
13	心理的アセスメントの事例と統合的解釈、報告(2)	講義・演習 実習・実技			
14	心理的アセスメントの事例と統合的解釈、報告(3)	講義・演習 実習・実技			
15	心理的アセスメントの展開	講義・演習			

【2025 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科】

試験		達成度評価					
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	70	30	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	0	30	5	0	0	35
	思考・推論・創造する力	0	10	5	0	0	15
	協調性・リーダーシップ	0	0	5	0	0	5
	発表・表現伝達する力	0	10	5	0	0	15
	コミュニケーション力	0	0	5	0	0	5
	取組みの姿勢・意欲	0	10	0	0	0	10
	問題を発見・解決する力	0	10	5	0	0	15
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	実習・実技を行った授業回（#6-11）で、心理検査を施行したまとめを個人でレポートとして提出する。一定の基準に満たないレポートは再提出を求める。				添削コメントを付して返却する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
成果発表	①	✓	実習・実技を行った授業回（#12-14）で、提示された模擬事例の心理検査の結果を報告書として、グループで仕上げてもらおう。提出されたレポートに基づき、グループごとに評価・加点を行う。				添削コメントを付して返却する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	なし						
教員の実務経験	本科目の担当講師は、臨床心理士及び公認心理師資格を有し、21年の心理相談・査定業務の経験がある。						
実践的授業の内容	医療分野を主とした現場経験を活かして、心理的アセスメント（心理査定）の意義を学生に教授する。						
そ の 他	本授業は演習・実習・実技の積み重ねで成立する。欠席するとその回に相当するレポート提出権を失う。原則、全ての授業に参加して単位認定が得られる方針であることを、十分に納得して履修登録を行うこと。また、登校授業（対面授業）であるため、大学が示した感染症予防対策の指針を遵守すること。感染症予防対策の観点から、教員の指示に従わない行動をとった場合には受講を認めないことがある。その場合、授業は欠席として取り扱う。なお、今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によって再度シラバスの変更が行われ得る。						